

日本国際連合学会（JAUNS）

ニューズレター

2023 年度 2 号

- JAUNS は、日本国際連合学会の英文名称、Japan Association for United Nations Studies の略です。
- このニューズレターには学会の活動や会員の皆様へのお知らせを記載いたします。
- 学会へのご意見、ご質問などは事務局までお寄せください。

1. 2023 年度第 2 回理事会（2023 年 12 月 1 日開催）の報告

2023 年 12 月 1 日（金）に法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて対面と Zoom により 2023 年度第 2 回理事会が開催されました。東アジアセミナー報告、『国連研究』編集状況報告、国連学会のホームページとニューズレターの活用についてのアンケート（案）の報告の後、2024 年度研究大会、2024 年度東アジアセミナー（日本開催）、「国際連合学会の役割の強化と改革のためのタスクフォース報告」の実現可能性を検討するワーキンググループ報告書について【継続】、入会及び退会の承認などの検討が行われました。理事会の議事抄録は、後日あらためて学会メーリングリストで配信いたします。

2. 第 22 回国連東アジアセミナーに参加して（玉井雅隆委員）

2023 年 11 月 24 日（土）～25 日（日）、第 22 回国連東アジアセミナーが韓国全州大学校にて韓国国連学会（KACUNS）をホストとして開催された。本セミナーは、世界的なコロナ・パンデミックを背景にオンライン開催となった昨年のセミナーとは異なり、3 年ぶりの対面開催となった。本セミナーでは「東アジアの平和と繁栄に関する国連の役割（“UN for Peace and Prosperity of East Asia”）」を統一テーマとして 2 日間にかけて 4 つのセッションに分かれて日中韓の国連研究者が国連に関わる諸問題に関し、北東アジア諸国と関連させながら報告を行った。

冒頭に韓国の前国連大使及び潘基文前国連事務総長の挨拶から始まり、早速実質討議に入った。第一セッションのテーマは「世界の平和維持と平和構築における東アジアの貢献」であり、日本側からは望月康江会員が報告を実施した。望月会員からは、2023 年に出された国連事務総長レポート「平和への新たな課題（A New Agenda for Peace）」に関して、東アジア諸国の対応と課題について報告が行われた。第二セッションのテーマは「SDGs の履行加速化に向けた国連の役割」であり、日本側からは小川裕子会員が報告を実施した。小川会員からは SDGs の履行状況に関して、「共通だが差異ある責任」論を通じてグローバル・サウスがどのように対応してきたのか、という報告が行われた。

第三セッションでは「ポストパンデミック時代における国連の役割」であり、武藤亜子会員が報告を実施した。武藤会員からは、人間の安全保障論を通じてパンデミック後の国連の役割に関して報告がなされた。また第四セッションでは「北東アジア三か国の歴史における国連の貢献」であり、玉井雅隆会員が報告を実施した。玉井会員からは、欧州地域との比較を通じて東アジアの歴史的共通性を指摘し、国連が

東アジア諸国の対話の促進役としての役割を担いうる点に関して報告を行った。この他三か国の会長によるラウンドテーブルも実施され、それぞれの国の国連に関する見解について報告が行われた。

本セミナーは久しぶりの全面対面開催ということもあり、各国の報告に関して活発な質疑応答も行われ、貴重な学術交流の場となった。各国研究者の交流が活発に行われ、外交的には対立することも多い三か国において貴重なセカンド・トラックの場であった。

※なお、今年度の東アジアセミナーは本学会が主催で、9月28日～29日に開催される予定です。詳細が決まりましたら、またMLなどでお知らせいたします。

3. 企画委員会からのお知らせ・研究大会（2024年6月8・9日開催）

日本国際連合学会第25回（2024年度）研究大会プログラム

共通テーマ：「国連と秩序構想」

果たして国連は、原加盟国による秩序構想の客体に過ぎないのか、それとも、自ら秩序構想を提示し、国際社会の構造・制度・アクターに影響を与えることのできる存在なのか。第二次世界大戦中に国際連盟に替わる新たな国際組織設立の構想が持ち上がり、ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、そしてサンフランシスコ会議を経て成立した国連は、国際平和の維持は英米中ソが中心となってこれを担うという「四人の警察官」構想をはじめとする戦後秩序構想の一つの具現であった。実際、国連憲章には「武力不行使」、「人権の国際的保障」、「人民の自決」、「紛争の平和的解決」など、戦後の国際秩序の構造・維持運営において重要な概念が原則・具体的規定として盛り込まれた。他方で国連は、特に冷戦終結以降、国内紛争、人道危機、気候変動、国際テロ、パンデミックなどの様々な重要課題に直面し、都度その存在意義を問われ続けており、国連事務総長は、加盟国などの要請を受ける形で「平和への課題」「より大きな自由を求めて」「私たちの共通の課題」などの秩序構想を適時提言してきた。2023年7月に発表された「新しい平和への課題（A New Agenda for Peace）」は、地政学的緊張と大国間競争を特徴とする現状の中、さまざまな分野での多国間協力を呼び掛けている。その意味では、戦後秩序構想の客体たる国連自身が、グローバル化した国際社会の諸課題に対応し得る秩序構想を提起する役割を果たしてきたともいえる。それでは、「国連という秩序構想」と「国連による秩序構想」はいかなる関係にあるのだろうか。前者は後者を促進しているのか、それとも阻害しているのか。あるいは、後者は、前者とは切り離され発展を遂げた国連の自律性・独自性の一つの現れなのだろうか。そもそも国連は、「秩序構想」の提言者たり得るのだろうか。

本研究大会では、国連と「秩序構想」との関係性を思想的・歴史的・政治的・法的に捉えることで、国際秩序（あるいはグローバル秩序）における国連の役割・機能・存在意義を問い直し、その秩序構想がもたらす政治的・組織的・法的インパクトを明らかにすることを目指す。

【日時】2024年6月8日（土）、9日（日）

【会場】大阪経済法科大学（大阪府八尾市楽音寺6丁目10）

【方式】一部ハイブリッド方式（基調講演は対面）

<第1日：2024年6月8日（土）>

1. 10:00～12:00 <<理事会>>

2. 13:00～ <<開場>>

3. 13:30～13:35 <<開会挨拶>>

理事長 山田哲也（日本国際連合学会理事長、南山大学）

4. 13:35～14:30 <<基調講演>>

報告 吉川元（広島平和研究所）

コメント 山田哲也（南山大学）

5. 14:30～14:40 <<休憩>>

6. 14:40～17:00 <<研究報告セッション1>>

「国連による秩序構想」に見る国連の存在意義

「平和への課題」「より大きな自由」「共通の課題」そして「新たな平和への課題」など、国連によって提言された秩序構想は、一方では、加盟国の要請を受けたものであるという意味で、諸国の利害関係、政治状況、規範意識から独立して策定された構想とは言えない。他方で、加盟国以外のアクターからのインプットや影響を踏まえ、あるべき国際社会像に向けて諸国を後押ししようとする野心的構想でもある。このような「理想と現実」に基礎づけられた国連の秩序構想は、実際に国際社会の政治状況・構造にどのような影響を与え、国際組織や国際法といった国際社会のインフラストラクチャーにいかなるインパクトを与えたのであろうか。そして、グローバル化しつつも益々混迷の度を強める国際社会において、こうした秩序構想を打ち出す国連の存在意義はどのように位置づけられるのであろうか。学術あるいは実務の面から、そして法あるいは政治の面から、この二つの問題に接近していただきたい。

*懇親会につきましては、開催校との調整により実施の是非を検討して参ります。

<第2日：2024年6月9日（日）>

1. 9:30～<<開場>>

2. 10:00～11:45 <<研究報告セッション2>>

「新しい平和への課題」と国連による秩序構想

ロシアのウクライナ侵攻は欧州、アジア、アフリカにおける食料危機やエネルギー危機といった地球規模の課題にも結びついている。シリア、アフガニスタン、ミャンマー、スーダン等では不安定な国内情勢が続くだけでなく、2023年10月にはイスラエル・パレスチナで戦闘が勃発し、民間人にも深刻な被害が発生している。一方、国連は1992年に出された「平和への課題」の新版を意識し、2023年7月に「新しい平和への課題」と題する政策概要を出し、核軍縮や平和活動から、持続可能な開発、サイバーセキュリティまで、さまざまな分野での多国間協力を呼び掛けている。2024年開催予定の未来サミットでは、世界規模の課題に対する協力の強化と持続可能な開発目標（SDGs）の次のグローバル・アジェンダが議論される予定である。そこで、「新しい平和への課題」を手掛かりに、国連の歴史と多国間外交の展開を振り返りつつ、国連による秩序構想の展望について改めて考える機会としたい。

3. 11:45～14:00 <<昼食／各種委員会>>

4. 14:00～15:45 <<若手独立報告セッション>>

5. 15:45～15:55 ≪休憩≫

6. 15:55～16:35 ≪総会≫（会員のみ）

2024 年度研究大会と「若手独立報告」募集について

日本国際連合学会 2024 年度研究大会は、2024 年 6 月 8 日（土）、9 日（日）に大阪経済法科大学にて開催する予定です。例年通り、「若手独立報告」セッションの報告者を募集いたします。日本国際連合学会の会員であることが求められますので、非会員の方には入会をお願いしております。「若手独立報告」セッションは、9 日の午後に開催する予定です。報告を希望される方は、下記に従ってご応募ください。報告テーマは限定致しません。国連研究の新たな可能性を示す、意欲的な報告をお待ちしております。なお、報告者に対しては、旅費助成の制度もございますので、詳細につきましては企画主任にお問い合わせください。

①応募資格：大学院博士後期課程在籍者以上

②募集人数：原則 2 名

③応募要領：日本国際連合学会企画主任・上野友也（kamino.tomoya.a6☆f.gifu-u.ac.jp、☆を@に代えてご対応下さい）宛に、以下の内容を明記したメールをお送り下さい。

(a) 氏名、所属・肩書き（博士後期課程在籍者は学年）、年齢

(b) 連絡先（もっとも連絡のつきやすい E メールアドレスや携帯電話番号など）

(c) ご報告のタイトル

(d) ご報告要旨（800 字～1200 字程度。形式は問いません。なお、公刊済みの紀要論文等に基づいたご報告の場合は、その旨お書き添えください。必要に応じて関連業績をご提出いただく場合もあります）

(e) その他、職歴、研究業績、その他業績など、ご報告に関連した参考情報があれば、適宜書き添えてください

④締切り：2024 年 3 月 31 日（日）（延長する場合は、ホームページでお知らせします）。人数・テーマの重複等を勘案した上で、採否を決定いたします。採否決定にあたり、ご報告テーマについて補足説明等をお願いしたり、ご報告内容の修正をお願いしたりする場合がありますのでご了承ください。

4. 編集委員会からのお知らせ

現在、『国連研究』第 25 号（特集テーマ「主権国家体制と国連」）の編集作業中です（2024 年 6 月刊行予定）。

5. 渉外委員会からのお知らせ

●2024 年度 ACUNS 研究大会のお知らせ

本年度の ACUNS の研究大会は、以下の要領で開催されます。

- ・日時：2024 年 6 月 20 日（木）～22 日（土）
- ・会場：国連大学

・テーマ：グローバル・ガバナンスと持続可能な開発：マルチラテラルな解決策をサポートする研究の再活性化する（Global Governance and Sustainable Development: Revitalizing Research to Support Multilateral Solutions）

今年は東京で開催されますので、ぜひご参加ください。

6. 広報委員会からのお知らせ

すでに、メールでご報告してあるように、昨年、国連学会のホームページとニューズレターについてのアンケートを実施し、37名の方より回答をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。いただきました様々な提言を、これからどのように実現していくかを考えるために、広報委員を募集しています。ご関心のある方は、広報主任の井上健（camelworld☆aol.com ☆は@にかえてください）まで、ご連絡ください。

7. 入会と退会の承認

2023年12月1日の2023年度第2回理事会において新入会員として下記の2名、退会5名（うち1名は2023年度末退会希望）が承認されました。2023年6月10日の第1回理事会後の会員数は297名であり、第2回理事会終了後の会員数は、295名となりました。

（新入会員 五十音順 敬称略）

槌谷 恒孝、松田 裕美

8. 会費納入のお願い

2023年度の会費納入のお願いを2023年6月に発送いたしました。会費をご納入くださいますようお願い申し上げます。複数年にわたり会費をご納入いただいていない方には、未納入の年度を記載しておりますので、ご確認の上、お振込みください。本学会は会費収入を主な財源として運営されておりますため、皆様のご協力が不可欠です。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。万一、行き違いの際はご容赦ください。

なお、会費を2年以上お納めいただいていない場合には、理事会で協議した後に、会員としての資格を失うこととなりますのでご注意ください（日本国際連合学会規約第7条）。会費納入状況については、事務局までメールでお問い合わせください。

会費納入の詳細については、下記の学会ウェブサイトをご確認ください。

<https://jauns.net/contact#02>

会費未納会員への対応について

2021年6月18日の理事会において、2年以上会費をお納めいただいていない会員について、次のように対応することを決定しました。

● メールアドレス・住所が不通で宛先が不明の会員

会員資格を停止し、復帰の申し出があった場合には、会費納入を条件に復帰を認めます。

● 宛先は有効で会費未納の期間が2年以上の会員

1か月の猶予をもって再度請求し、支払がない場合には上記宛先不明者と同様の扱いとします。

会費長期未納者への『国連研究』の送付について

2023年6月10日の理事会において、会費の長期未納者に対する『国連研究』の送付方針が次の通り承認され、翌11日の総会においても報告されました。2022年度までは会費の長期未納者であっても『国連研究』を毎年発送していましたが、2023年度から長期未納者に対しては送付を保留し、メールアドレスや住所の確認、及び未納分の会費請求を通じて、年会費の支払いが確認できた年度について当該年度の『国連研究』を発送することになりました。もし2023年度会費を納入したにもかかわらず、『国連研究』第24号が届いていない会員の方は、事務局までご連絡ください。毎年継続的に会費をお支払いいただいている会員の皆様には、従来通り『国連研究』を研究大会の開催時期に合わせて発送しています。

9. 事務局からのお知らせ

2017年度よりメーリングリストを立ち上げ、学会からの情報提供を随時行っております。ニューズレターにつきましても、PDF版をメーリングリストにて配信するほか、学会ホームページからも過去のニューズレターを含めてご覧いただけます。メーリングリストへの登録メールアドレス及び連絡先に変更のある方は、事務局までお知らせください。

2023年12月1日の第2回理事会終了後の会員異動を反映した2023年度の会員名簿の提供を予定しています。本ニューズレター配信後、学会MLを通じてPDFにより配信しますので、下記のパスワードをご入力ください。

2023年度会員名簿パスワード 【削除】

2024年度に住所や所属先等に変更のある方は、随時学会事務局までご連絡ください。会員登録情報アンケートは、下記の学会ウェブサイトから入手し、ご記入のうえ送付をお願いいたします。

<https://jauns.net/contact#03>

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

香川大学法学部 山本慎一研究室内

日本国際連合学会事務局

E-mail: jauns2013@gmail.com

日本国際連合学会（JAUNS）ニューズレター 2023年度2号：2024年2月発行

広報委員会（広報主任：井上健 広報委員：平井華代、妻木伸之）